

## 視覚からみた高齢者と眼疾患者の運転の問題点

三宅養三（名古屋大学医学部眼科）

安全な運転には正常な視覚とその視覚から得た情報に機敏に反応する反射的動作が必要である。ヒトの視覚は視力、視野、色覚、調節力、動体視力、立体視、コントラスト視力等々多くの機能からなっているがその種類によって老化の速度は異なる。例えば調節力は10代でピークに達し以後老化が進行する。各種視機能が老化すると運転にどのように影響するかを考えてみたい。

さらに眼疾患が運転にどのような障害を来すかを患者からの苦情を紹介して考えてみたい。今回強調したい疾患に網膜色素変性がある。この疾患は約5、000人に一人程度の頻度で発症する遺伝病だが、視野狭窄が進行し、視力の低下は遅れるため視野の非常に狭い患者が運転免許を取得している現状にしばしば遭遇する。このような患者にどのような危険が付きまとうかを患者の体験から説明する。

名古屋大学眼科

三宅養三